



Aobayama Concert

第8回 青葉山コンサート プログラム

2018年10月19日（金）17:15-19:30（開場 16:30）

東北大学 青葉山キャンパス 工学研究科 青葉記念会館

「研弓第一、実楽尊重、門戸開放弦」を合言葉に弦楽四重奏団「青葉山カルテット」を結成し、第1回のコンサートを実施したのは、2011年の12月21日のことだった。施設管理係の許しを得て工学部あおば食堂の回廊でコレルリのクリスマスコンチェルトを演奏した。汗だくだった。こんなこととしていいのか、という気持ちで……。しかし、やめろというあからさまな声もなかったので、その後、工学部ブックカフェ Book での数回の演奏、機械系事務室前スペースでの弦楽合奏など、回を重ねるうち、神の恵みか、機械系の同窓会からグランドピアノをご寄贈いただき、この青葉山コンサートにつながっている。文化のいとなみは、美しくもはかない。みなさまと一緒に、この絃（いと）をなんとか切らないように紡いでいきたいものである。ちなみに冒頭の標語は、楽器がうまくなるには科学的研究態度が大切、音楽は聴くのもいいがやるほうが百倍楽しい、どうせやるならみんなで楽しく気持ちよくバーンと音を出しましょう、というほどの意味である。

青葉山コンサート実行委員会 代表 村田 智

第1部 (17:15-)

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | 工藤康大 (Pf 連弾) 工学部1年 濱名我久 (Pf 連弾) 工学部1年 | 「小組曲」より第2曲「行列」 / C. Debussy 作曲 スペイン舞曲 Op.12-3 / M. Moszkowski 作曲 このペアでのステージの演奏は初めてです。「行列」では貴婦人のお付き人やペットの猿の軽快な様子を描写し、「スペイン舞曲 Op.12」の中でも第3番は人気が高く、とても明るい曲です。それぞれの曲の雰囲気を変えて表現できるように演奏したいです。 |
| 2 | 工藤康大 (Pf) 工学部1年 | 練習曲 Op.25-1 変イ長調「エオリアンハーブ」 / F. Chopin 作曲 プレリュード Op.32-12 嬰ト短調 / S. Rakhmaninov 作曲 ショパンの練習曲は、美しい旋律と和声の織り成す叙情性に溢れた高い芸術作品であり、1曲目の「エオリアンハーブ」にもそれらがよく感じられます。2曲目は、雪に覆われたロシアの大地をソリが鈴を鳴らしながら走る様子が表現されています。 |
| 3 | 安孫子健一 (Gt) 理学研究科前期1年 | 森に夢見る / A. Barrios 作曲 Barrios はパラグアイ生まれのギタリスト兼作曲家であり、「森に夢見る」は彼の代表作の一つです。「アルハンブラの思い出」と同様に曲の全体にわたってトレモロ奏法が用いられた幻想的な作品です。 |

-
- 4
- 田原靖彦 (Mn)
工学研究科 OB
- 川又政征 (Gt)
工学研究科 教員
- 感傷のマズルカ / C. Munier 作曲
夢見る君 (Beautiful Dreamer) / S. C. Foster 作曲 / 田原善平編曲
今回の「青葉山コンサート」では、マンドリンとギターのための小曲 2 曲をお届けします。「感傷のマズルカ」は、イタリア・マンドリン界の大御所ムニエルの作曲で、ペーナータ奏法 (1 音符 2 音のトレモロ) でマズルカのリズム感を表現するところに特徴があります。「夢見る君」は父親のアレンジによるもので、私にとって思い出深い作品です。
-
- 5
- 小山拓武 (Pf)
工学部 3 年
- 水の戯れ / M. Ravel 作曲
この曲はラヴェルのピアノ曲の中でも代表的な曲です。噴水のような水の動きが色彩豊かに表現されていますが、割と難しい曲なので自分では上手く表現出来るか分かりません (予防線)。
-
- 6
- 齊藤 黎 (Gt)
農学部 4 年
- ザンブラ・グラナディーナ / I. Albeniz 作曲
11 月のある日 / L. Brouwer 作曲
アルベニスとはスペイン国民派を代表するピアニスト、作曲家である。異国情緒漂うイスラム文化の名残りを濃く引き継ぐ舞曲。アルベニスは、グラナダの昔栄えて亡んだサラセン帝国の遺跡を前に、盛者必衰の感慨から、この曲を作曲したようである。ブローウェルはキューバのギタリスト、作曲家であり、多くのギター曲を作曲している。この曲は 1972 年キューバ革命を描いた「Un dia de Noviembre (11 月のある日)」のための映画音楽として作曲された。現在ではクラシックギターの人気曲として非常に有名である。
-
- 7
- 中山貴史 (Gt弾き語り)
理学研究科 職員
(都合によりキャンセル)
- Your Song / B. Taupin 作曲
1970 年のリリースから半世紀近くを経ても色あせない作品。定番のピアノ弾き語り曲をギター演奏でお届けします。1970 年のリリースから半世紀近くを経ても色あせない作品。定番のピアノ弾き語り曲をギター演奏でお届けします。
-
- 8
- 高田めぐみ (フラダンス)
工学研究科 職員
- 中山貴史 (歌)
理学研究科 職員
- 中田俊彦 (Pf)
工学研究科 教員
- マンドリン四重奏団
田原靖彦 (1stMn)
工学研究科OB
三浦佳乃 (2ndMd)
農学部 2 年
尾崎智乙 (Md)
理学部 2 年
川又政征 (Gt)
工学研究科 教員
- 涙そうそう / 森山良子 作詞、BEGIN 作曲、菊池美奈子 編曲
Ka Uluwehi O Ke Kai (海の美しく茂る草) / E. Kanakaole 作曲、
田原靖彦 編曲
BEGIN が歌う「涙そうそう」を基に、歌とピアノ、フラでお送りします。2 曲目は、ハワイアン風の曲をマンドリンとギターのリズムに乗せて、晴れわたる空と海、熱い砂浜・・・仲間とともに海藻を摘みにかける楽しい情景をフラで表現します。

第 2 部 (18:30-)

- 9 中田俊彦 (Pf)
工学研究科 教員
For Tomorrow / 清塚信也 作曲
TBS 系テレビドラマ「コウノドリ」のメインテーマ。主演の綾野剛が奏でる曲を、ピアニスト清塚信也が作曲し、音楽監修も務めた。優しい音色とダイナミックな音階が、繰り返し心の中まで響いてくる。
-
- 10 星陵トロンボーン Duo & Piano
句坂康平 (Trb)
工学研究科前期1年
藤野春海 (Trb)
医学部5年
柴田麻衣 (Pf)
医学部5年
「春の呼ぶ声を聞く」より 桜 三春滝桜に寄せて /
高嶋圭子 作曲
日本の三大桜としても名高い福島県三春の滝桜。震災の激しい揺れに見舞われてもなお、変わらず花を咲かせたその姿に多くの人々が励まされました。私たちは、星陵アンサンブルという音楽サークルに所属し、さまざまな編成で室内楽を演奏し楽しんでおります。今回は、テナートロンボーン2本とピアノという珍しい編成にて演奏させていただきます。トロンボーンならではの甘く柔らかい響き、そして歌う心を味わっていただければと思います。
-
- 11 渡辺 楓 (Ob)
理学部 1 年
虹 / 森山直太朗・御徒町凧 作曲
上を向いて歩こう / 中村八大 作曲
今回は皆さんが聞いた事のある曲を選びました。そしてどちらも明日への希望を与えてくれる曲です。皆さんの週末が素敵なものになりますように。
-
- 12 井樋慶一 (Pf)
情報科学研究科 教員
平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻 前奏曲とフーガ 第 21 番
変ロ長調 / J. S. Bach 作曲*
ピアノソナタ ハ長調 KV 330 第 2 楽章 アンダンテ・カンタービレ / W. Mozart 作曲**
*即興的な前奏曲に続いて 4 連の 8 分音符が印象的なフーガが演奏されます。 **ハ長調の第一楽章 (今回は演奏しません) に続くハ長調の第 2 楽章は 3 拍子で、中間部でヘ短調に転調されます。3 連同音 8 分音符のモチーフと美しい和音が特徴的です。歩く速さで歌うようにと指示されています。
-
- 13 青葉山カルテット
夏井修子 (1stVn)*
遠藤美穂子 (2ndVn)*
松浦順子 (Va)*
村田 智 (Vc)**
工学研究科*職員、**教員
交響曲 40 番 (K.550) より 第 1 楽章 (弦楽四重奏版) /
W. Mozart 作曲
「ため息のモチーフ」とも呼ばれる冒頭がとても有名な曲です。そのモチーフ、中間部で不思議な音程で出現するのは。そんな意外性も素敵な曲です。本来の編成「弦楽器+木管楽器+ホルン」を本日は 4 人で奏でます。
-
- 14 シャリとガリガリ
橋本晋 (Vn)
工学研究科前期 2 年
八木澤亮 (Vc)
文学研究科前期 2 年
中村龍平 (Pf)
生命科学研究科前期 2 年
ピアノ三重奏曲第 1 番ニ短調 Op.49 より第 1 楽章 /
F. Mendelssohn 作曲
ドイツ生まれの作曲家メンデルスゾーンによって作曲されました。この曲を聴いたシューマンは「ベートーヴェン以来、最も偉大なピアノ三重奏曲」だと評し、作曲者を「19 世紀のモーツァルト、最も輝かしい音楽家」と称えたという逸話があります。

終 演

涙そうそう 歌詞（森山良子作詞）

古いアルバムめぐり
ありがとうってつぶやいた
いつもいつも胸の中
励ましてくれる人よ
晴れ渡る日も 雨の日も
浮かぶあの笑顔
思い出遠くあせても
おもかげ探して
よみがえる日は 涙そうそう

一番星に祈る
それが私のくせになり
夕暮れに見上げる空
心いっぱいあなた探す
悲しみにも 喜びにも
おもうあの笑顔
あなたの場所から私が
見えたら きっといつか
会えると信じ 生きてゆく

晴れ渡る日も 雨の日も
浮かぶあの笑顔
思い出遠くあせても
さみしくて 恋しくて
君への想い 涙そうそう
会いたくて 会いたくて
君への想い 涙そうそう

青葉記念会館のグランドピアノは、震災後5年を経た
2016年3月に心の復興のために機械系同窓会が寄贈し
たものです。

（使用可能時間：平日 9:30-19:30）

協力：工学部事務部 総務課、施設管理室

シンボルマーク・ロゴタイプデザイン 笹川 瑛貴
プログラムデザイン・編集 川又 政征
2018. 10. 19

Ka Ulwehi O Ke Kai
カ ウルヴェヒ オ ケ カイ
（海の美しく茂る草）歌詞意訳

広い大洋を見渡すのはなんて素晴らしい
とても親しみ深く大切な場所
“リーポア”の香りと共に

それは浜辺に打ち寄せるリーポアの香り
きらきらと輝く砂浜
強い日差しが照り付ける砂浜を歩くのは
容易なことではありません

海中の岩の上に群がる
“リムコフ”はとても魅惑的
思わず手にしたくなります
あちこちで誘うように揺れているのです

これでお話は終わります
リーポア と リムコフ の仲間
“パーヘエ”と“リーパル”も仲良く一緒に
いただきましょう

海藻の名前：

Lipoa(リーポア) (和名スジヤハズ)

Limukofu(リムコフ) (和名カギケノリ)

Pahe`e(パーヘエ)

Lipalu(リーパル)

青葉山コンサート実行委員会

村田 智、 中田 俊彦、 桑野 博喜
川又 政征、 井樋 慶一、 佐藤 達也
中村 肇、 田原 靖彦

青葉山コンサートホームページ

<http://www.bio.is.tohoku.ac.jp/~aobayama/>

